

植樹ボランティア参加者 大募集！

「山田養蜂場 ネパール植樹ツアー」



写真：ネパールで現地の方と植樹する弊社従業員

株式会社 山田養蜂場（本社：岡山県苫田郡鏡野町 社長：山田 英生）は、豊かな自然環境を次世代へ引き継ぐ活動、開発途上国に対する自立支援活動の一環として、1999年からネパールで植樹活動を毎年実施してきました。

13回目となる今年度も、現地の方々と協力して、ネパールで約50,000本の植樹を行います。一般の方からのボランティア参加者を募集中です。

【ネパール植樹ツアー 詳細】

- ◆ 期 間：2011年11月24日(木)～11月28日(月) ※3泊5日(機中一泊)
- ◆ 旅行代金：198,000円
※燃油サーチャージ(目安39,000円、9月20日時点)、空港諸税等(約5,300円)、ビザ申請(目安4,000円)が別途必要となります。
- ◆ 申込締切：2011年10月31日(月)

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社 山田養蜂場 広報室 木村、坂本、寺田
〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場 194
TEL:0868-54-1906 (月～金 9:00～17:30、土日祝除く)
FAX:0868-54-3346 <http://www.3838.com>

ツアー概要

月 日		スケジュール
1	11/24 (木)	<p>朝 : (09:00) 関西空港国際線カウンター前に集合。 午前 : 関西空港発(11:00)キャセイパシフィック国際航空565便にて、香港へ。 [所要6時間05分/台北経由]</p> <p>夕方 : 香港着(16:05) 着後、乗り継ぎ手続きを行います。 夜 : 香港発(19:05)ドラゴン航空196便(CX6748)にて、カトマンズへ。 [所要5時間25分]</p> <p>夜 : カトマンズ着(22:10) 入国手続の後、ホテルへご案内します。 【カトマンズ泊】</p>
2	11/25 (金)	<p>終日 : ホテルにて朝食後(少し遅めの出発)、現地の植樹活動パートナーの経営する日本語学校を訪問し、現地の生徒さんとの交流を行います。 昼食後、目玉が描かれたネパール最古の仏教寺院「スワヤンブナート」や高さ約36mのネパール最大のチベット仏教の巨大仏塔「ボダナート」、カトマンズにあるシヴァ神を祭るネパール最大のヒンドゥー教寺院、生き女神の住む「クマリー寺院」、「ダルバール広場」などにご案内します。 観光後、ホテルへ。 ホテル到着後、荷物を置き夕食前に明日からの植樹に向けて、3名の講師にお越しいただき、植樹の背景、目標についての講演会(約1時間半程度)を行います。その後、ホテルにて夕食。 【カトマンズ泊】</p>
3	11/26 (土)	<p>終日 : ホテルにて朝食後、カトマンズ近郊の村にて植樹活動 カトマンズ近郊の村にて植樹活動。現地の方とご一緒に植樹活動をしていただきます。村の方が作っている、苗木の視察も行います。村までの道中では、過去に植樹した苗木の状況や、植樹の対価で出来た道路を通って村まで移動いたします。(4WD車での移動予定) 植樹後、村にある小学校にて歓迎セレモニーを行います。 終了後、カトマンズ市内へ移動します。 夕食は、ネパール協会主催のパーティーにて。(現在調整中) 【カトマンズ泊】</p>
4	11/27 (日)	<p>終日 : ホテルにて朝食後、ヒマラヤ観光(ナガルコット日帰り観光) ナガルコットはエベレストはじめヒマラヤの展望台として知られています。その後、古都バクタプルの市内観光へご案内いたします。 その後、カトマンズ市内に戻り、外国人向けの様々な商業施設があるタメル地区へご案内いたします。 ネパール最後の夕食は、日本食(日本そば+てんぷら)をご賞味ください。 夕食後、空港へ。空港到着後、搭乗手続きを行います。 夜 : カトマンズ発(23:25)ドラゴン航空191便(CX6731)にて、香港へ。 [所要4時間00分] 【機中泊】</p>
5	11/28 (月)	<p>早朝 : 香港着(05:45) 着後、乗継ぎを行います。 午前 : 香港発(10:20)キャセイパシフィック国際航空506便にて、関西空港へ。 [所要3時間20分]</p> <p>午後 : 関西空港着(14:40) 着後、解散。</p>

■植樹指導は、横浜国立大学名誉教授 藤原一繪(かずえ)先生 (※1)

■燃料や建材として販売できる木、実のなる木など、生活のために必要な樹種を植樹

補 足 内 容

ネパールでの植樹活動の経緯

ネパールのカトマンズで開催された第4回アジア養蜂研究協会大会（1998年3月）に、弊社代表の山田が出席しました。その時、ネパールの人々の生活や、豊かな自然環境が破壊されている実情を視察し、自分たちのできる範囲で、何か協力ができないかと考えたことがきっかけです。

弊社は通信販売を主軸としておりますが、企業活動を継続していく上で、紙の消費を避けられないのが現状です。豊かな自然環境とともに歩む養蜂業を起源とする組織として、再生可能な資源の植樹活動は当然なすべき使命と捉え、この植樹計画が始まりました。

当初、弊社の紙の年間使用量を計算したところ、概算で年間1500トン使用していることがわかりました。これから換算して、年間3000本以上の木を毎年植えていく必要があると考えました。養蜂大会を通じてお付き合いが始まった日本語学校校長のシャム・バハドゥル・ダンゴル氏（※2）の協力を得て、1999年7月にデウラリ村のドゥデスワリドゥルガ小学校周辺に700本の植樹を行ったのが現在の植樹活動の始まりです。

■過去実績

植樹年度	植樹本数
1999年	700本
2000年	15,000本
2001年	35,000本
2002年	30,000本
2003年	50,000本
2004年	44,000本
2005年	10,000本
2006年	13,654本
2007年	17,234本
2008年	21,000本
2009年	50,660本
2010年	50,000本
合計	337,248本

※1. 藤原 一繪先生 プロフィール

1944年生まれ。横浜国立大学卒業。フランス中央研究機関（CNRS）、給費研究員（リール大学）、横浜国立大学環境科学研究センター助手などの経歴をもつ。現在、横浜国立大学名誉教授、横浜市立大学特任教授。宮脇 昭先生と共に国内外での森作りを指導。

著書に「混源植物」「環境問題を考える」（共著）「東南アジアの植物と農林業」（共著）「日本植生誌」全10巻（共著）など

※2. シャム氏 プロフィール

シャム・バハドゥル・ダンゴル氏（SHYAM BAHADUR DONGOL）

1958年8月1日生まれ。トリブバン大学教育学部、地理学部を卒業。

日本語教師協会（JALTAN）2003年12月から2006年3月まで会長、現在は相談役（ボードメンバー）。ふるさと日本語学校校長、日本語教師。

ネパール国内における教育普及活動、自然保護活動、学費の資金提供、文房具や衣類を届ける活動、植樹活動など、日本語学校経営からの収入を使い、ボランティアとして様々な活動を行っています。